

研究 テーマ	学び合いを通して、楽しく、主体的に、基礎・基本の定着を図るための授業の工夫 ー第1学年「季節の色を見つけよう！～ポスターカラーを使って～」の実践を通してー
-----------	--

龍ヶ崎市立愛宕中学校 教諭 市村 正巳

I 研究テーマについて

中学校学習指導要領解説の美術編では、第1学年の目標の一つとして「楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲態度を育てる。」とある。また、共通事項として、「ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。」「イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。」と示されている。1年生では、美術を難しく考えずに、楽しみながら自分の発想を生かし活動をさせていきたい。小学校から中学校に入学し、教科名も図画工作から美術に代わり、学習内容も専門的になってくる。そこで、中学校で学ぶ専門的な分野に発展させた美術の授業の基礎的・基本的となる技能的な能力をスムーズに身に付けさせ自信を持たせることが、今後の美術における造形的な表現活動への土台となると考えた。

今回の研究では、どのようにして美術の授業を楽しみながら、全ての生徒に基礎的・基本的な能力を身に付けさせることができるのかを目的に、ワークシートを中心とした教材の開発を試みた。1年生を対象とし、教材は表現方法をマニュアル化することで、全員が同じ歩調で確認しながら基礎的・基本的な能力が身につくことを想定して施策し実践してみた。具体的に、基礎的・基本的な能力が身についたかという達成度は、「全員が課題を完成させることができること」「教師が意図した発想や技能が表現できること」「完成後に充実感や達成感が味わえること」を目標とする。この研究で開発した教材を実践することで、求める基礎的・基本的な能力が身につけることができるかを研究していきたい。この課題を経て生徒達が充実感や達成感を味わうことができれば、生涯にわたり、主体的に美術の造形的な表現活動に興味・関心をもって関わっていく態度を育むことができるであろうと考える。

II 研究の実際

1 題材名 季節の色を見つけよう！～ポスターカラーを使って～

2 題材の目標

- ポスターカラーの使い方を理解し、想像した季節の色を積極的に着色することができる。
(関心・意欲・態度)
- 季節のイメージにあった色を想像し、配色を工夫して、構想を練ることができる。
(発想や構想の能力)
- ポスターカラーの特性をいかした作品づくりができる。
(創造的な技能)
- 完成した作品から、季節のイメージや友だちの作品のよさを感じ取ることができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態 (1年2組 35名)

アンケート調査結果 (9月22日実施 欠席1名)

質問1	美術の授業は、好きですか？	好き 28名	○苦手 7名
質問1	今までにポスターカラーを使ったことはありますか？	ある 8名	ない 27名
質問2	絵の具の混色は得意ですか？	得意 15名	苦手 20名
質問3	絵の具をきれいに塗っていくことは得意ですか？	得意 3名	苦手 32名

ほとんどの生徒は、積極的に制作活動に取り組むことができる。アンケートからは、苦手意識を持っている生徒がいる。そのため、授業では、学び合いを取り入れながら、生徒同士で教え合ったり、助け合ったりできるようにする。また、混色が苦手、絵の具の塗り方に不安を抱いている生徒には、事前に行った3原色による色づくりや混色カードを使って確認しながら、自分がイメージした色がつくれるように支援していく。マスキングテープを用いて、はみ出さないで塗る方法を指導することで、自信を持ってポスターカラーで着色できるようにする。

(2) 題材観

本題材は学習指導要領美術A表現(1)ア「対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すこと。」及びB鑑賞ア「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。」にあたる。

作品の制作を通して、まず水加減を工夫させ、ポスターカラーの特性を活かした着色ができることを学ばせたい。次に、季節のイメージにあった色を想像させ、その配色を工夫させ季節感を表現させたい。鑑賞では、完成した互いの作品を通して、想像した季節のイメージの色の違いや配色の工夫からそれぞれの作品の良さに気づき、認め合い、それらを自分の言葉で表現することを学ばせたい。

(3) 指導観

美術における個性とは、一人一人が表現したい内容を達成する過程で、自己確認しながら表現していくことと考える。本題材では、春・夏・秋・冬の4つの季節のイメージを色で表現できるように指導していく。その際、友達の意見を聞いたり参考資料から、自分の季節のイメージを想像し確立させていかせたい。季節のイメージの色が決まったら、配色を工夫させ、より季節感が深まるように工夫させる。次に、配色カードを用いて、混色の仕方や、ポスターカラーの特性をいかした着色方法を学ばせていく。

生徒が最後まで興味をもって意欲的に取り組めるように、制作上のつまづきや困難を克服させながら、制作活動に必要な基礎的・基本的な能力を定着させ創造性ある作品づくりができるよう指導の工夫に努めたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
今まで学習してきた色の知識を基に、季節のイメージの色を表現しようとする。	季節のイメージにふさわしい色で配色し、美しく効果的な表現を構想することができる。	課題にあった色を絵の具を混色してつくり、ポスターカラーの特性をいかして塗ることができる。	自他の作品のよさを発見し、色のもつ感情を感じ取ることができる。

5 指導と評価の計画（6時間扱い）

計画	時	学習活動及び内容	評価規準（観点：関・発・技・鑑）【評価方法】
第1次	①	○色についての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 色の持つイメージや特性を理解し、課題をどう表現するのか興味関心を持つことができる。 【関】【観察・ワークシート①】
第2次	①	○ポスターカラーの特性を理解し、ていねいに着色する。	<ul style="list-style-type: none"> 適度な水加減を理解し、ムラの無いように着色することができる。 【技】【観察・ワークシート②】
第3次 (本時は 第1時)	③	○ワークシートに季節のイメージの色をていねいに着色する。	<ul style="list-style-type: none"> 季節のイメージにあった配色を工夫し、着色することができる。 混色を工夫し、季節のイメージの色をつくることことができる。 ポスターカラーの特性を活かして、ていねいな着色ができる。 【発】【技】【観察・ワークシート①】
第4次	①	○自他の作品を鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品を振り返るとともに、友達の作品のよさを感じ取り、適切な言葉で表現することができる。 【鑑】【観察・作品・鑑賞カード】

6 本時の指導

- ① 目 標 季節のイメージにあった色を見つけ、着色することができる。
- ② 準備物 ワークシート、参考資料、ポスターカラー絵の具セット、廃紙
- ③ 展 開

配時	学習活動・内容	○支援 ・指導上の留意点 ●評価
5	1 学習課題を確認し、活動の見通しを立てる。	・本時の課題について確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 季節のイメージにあった色を見つけよう。 </div>		
15	2 季節の色を見つける。 (1)個人で見つける。 (2)学習形態を4人グループにして見つける。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で、季節にあったイメージの色を考えさせる。 ・参考資料を使って、季節のイメージを膨らませる。四季のイメージと色の特性を関連づけてイメージをつかませる。 ・4人グループにして、友だちの意見を参考にしながら自分の季節の色を確立させる。 ・画面の中で、主になるものと、背景になるものに分けて、季節感のある配色計画をする。 ●季節のイメージにあった色を見つけることができたか (観察・作品)
20	3 ワークシートに、ポスターカラーを使って、季節の色を塗る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターカラーの特性を活かして、ムラの無いように色を塗る。 ・廃紙を使って試し塗りをさせ、水加減を検討させる。 ・一人一人の制作意図を確認しながら机間指導を行う。 ○混色に迷っている生徒には、混色カードを使わせて見つけた季節の色が表現できるようにさせる。 ○順調に進んでいる生徒には工夫している点を賞賛し、自信を持たせる。 ・グループ内で問題解決ができるように教え合わせる。 ○制作への迷いやつまずきが見られる生徒には、参考作品を活用し、季節感のある効果的な着色ができるように助言する。 ○制作意欲が低い生徒には、制作意図を確認しながら、季節の色を確立させ、制作に気持ちを集中させる。 ●季節感のある着色ができているか。(観察、作品)
5	4 後片付けをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的に後片付けができるように指示する。 ・パレットに出したポスターカラーは、全て洗い流すように指示する。
5	5 本時の制作を振り返る。次時の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・よかったところを賞賛し、着色が順調にできている作品を紹介して、次時の授業の参考にする。

〈資料1〉ワークシート（春）

季節のイメージを言葉で表現する。

季節のイメージの色を決める。

イメージしてできた季節の色を塗る。

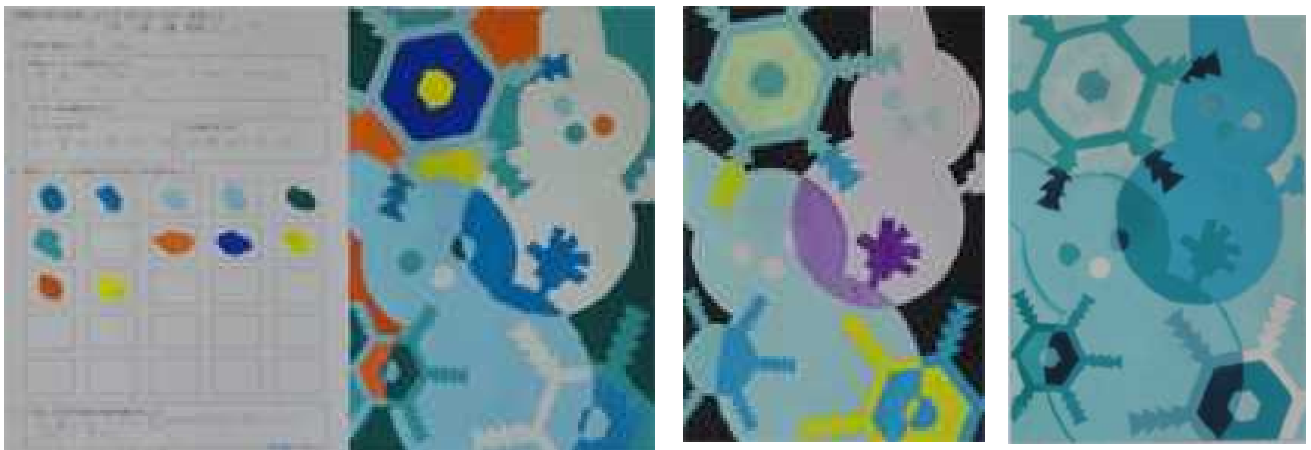


季節のイメージの色で塗って、作品として完成させる。

〈資料2〉季節のイメージを膨らませるための資料

(春のイメージ)	(夏のイメージ)	(秋のイメージ)	(冬のイメージ)

〈資料3〉 完成した作品



Ⅲ 研究の成果と課題

(1) 事後アンケート調査結果

1年美術『1年間を振り返って』アンケート調査結果（実施人数 72名） 2015, 3月実施

質問1 美術の授業は、楽しかったですか？

○楽しかった 34名 ○まあまあ楽しかった 35名 ○あまり楽しなかった 1名
○楽しなかった 2名

質問2 1年間の授業の中で、楽しくできた題材は何ですか？

○鉛筆デッサン 4名 ○12色相環 2名 ○抽象画 10名
○季節の色を見つけよう 17名 ○本物そっくり 43名 ○鑑賞 4名

質問3 「季節の色を見つけよう」授業で、がんばったことは何ですか？（複数回答）

○想像力 17名 ○混色 20名 ○配色 48名 ○筆の使い方 22名
○マスキングテープの使い方 5名 ○ポスターカラーの水加減 21名
○ポスターカラーの塗り方 28名

質問4 美術の授業を振り返って、4月と現在の自分を比べてどう変化したと思いますか？

○自信がついた 7名 ○楽しくなった 52名 ○好きになった 30名 （複数回答）
○できることが増えた 38名 ○変わらない 3名 ○つまらなかった 1名

(2) 成果

- ・全生徒が自分の季節の色をイメージして、混色や配色を工夫し着色して、作品として完成させることができた。
- ・第1次（導入）では、用意した4種類（季節）のワークシートを裏返しにして自由に生徒に選ばせることで、興味を持って取り組もうとする意欲につながった。
- ・第2次（事前指導）で、ポスターカラーを使い方を体験したり、廃紙を用意して水加減の調整をさせたことで、ポスターカラーの特性を理解し、色むらのない着色ができるようになった。
- ・第3次（作品制作）では、グループ活動を取り入れたことで、生徒同士の学び合い（教え合い）が行われ、考えや技能を共有することで、楽しく自信を持って、色の選択や混色による色づくり、季節のイメージの配色を、自分の納得のいく制作活動ができた。
- ・各グループで、学び合いを通して、主体的に制作活動に取り組むことができた。グループづくりも、生徒同士で話し合い決めさせ、授業を行えるようになった。生徒一人一人が、授業のねらいを理解して、話し合える体制が整ってきた。

(3) 課題

- ・1年間の美術の授業を振り返って、「変わらない」「つまらなかった」と答えている生徒がいる。授業での生徒達とのコミュニケーションの中から、誰もが楽しく達成感のもてる題材開発や授業の進め方を探っていきたい。
- ・作品制作過程を、デジカメ等を使って撮影・記録しておけば、生徒の変容等を細く振り返り分析でき、評価や今後の指導の参考にできたのではないかと感じた。
- ・ワークシートの「イメージした季節の色」を塗る枠が四角だと塗りづらそうだったので、丸い枠にして気軽に塗れるように改良したい。
- ・1年生を中心に、「学び合い」を意識した授業づくりを取り入れてみた。主体的な活動や生徒同士による教え合う姿が多く見られるようになってきた。よかったことは、引き継ぎ実践していきたい。今後は、どの場面で、どうすれば「学び合い」が成立するのかを考えながら、題材に合った授業づくりをデザインしていきたい。また、学年の雰囲気や発達段階が影響していると思うが、性別や仲のよい友達等のこだわりから抜けられずに、教師主体のグループづくりをしたり、グループで学び合うという段階までには至らなかった。今後は、生徒理解を深め、教師主体の授業から脱却して、友達と学び合いながら、主体的な制作活動ができるように授業の改善を図っていきたい。

〈参考文献〉

- ・「中学校学習指導要領（平成20年9月）解説 一美術編一」日本文教出版発行 文部科学省
- ・「評価規準作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（平成23年11月）」教育出版発行 国立教育政策研究所教育課程研究センター